

## 六ヶ所核燃サイクル施設の現状について

2016年2月14日現在

### 核燃施設と核燃裁判

各施設	ウラン濃縮工場	低レベル埋設	高レベル一時貯蔵	再処理工場	MOX加工工場
施設の規模	150 トン SWU/年で操業開始。最終的には1,500 トン SWU/年。	200 リットルドラム缶約100万本相当。最終的には約300万本相当。300年間管理が必要。	返還高レベル放射性廃棄物ガラス固化体2,880本。貯蔵期間は30年間から50年間の予定。	最大再処理能力 800 トン/年。使用済燃料貯蔵容量3,000 トンU。	最大加工能力 130 トンHM/年
事業申請	87年 5月26日	88年 4月27日	89年 3月30日	89年 3月30日	2005年 4月20日
公開ヒア		90年 4月26日	91年10月30日	91年10月30日	7年 9月 6日
事業許可	88年 8月10日	90年11月15日	92年 4月 3日	92年12月24日	10年 5月13日
着工	88年10月14日	90年11月30日	92年 5月 6日	93年 4月28日	10年 10月28日
操業	1,050 トン規模まで拡大したが、2010年までに7工場停止。現在は75 トン SWU/年で操業中。	92年12月 7日	95年 4月26日	使用済燃料貯蔵プールは98年貯蔵開始。再処理施設は完工延期22回目で18年上期。これも延期かも？	2016年3月竣工予定だったが、工事遅れで、2019年上期に竣工延期。
現状	7工場が停止状態。旧遠心分離器の処理等が今後の課題。新遠心分離器が75tSWU/年で一部稼働。今後450トン SWU/年まで増設する予定。	1号と2号の廃棄物がある。搬入期間が延長しており、浅地中への埋設が長期化し、ピットが野ざらし状態なので、劣化が懸念される。	仏国分は搬入終了。英国分については、再処理後の低レベルの代わりに、高レベルとして受け入れる返還計画もある。	高レベルガラス固化が不調で、竣工長期間延期。今は、新規制基準の審査が長期化している。敷地周辺断層の疑いが濃い「大陸棚外縁断層」を事業者と原子力規制委員会は活断層でないと見解をまとめた。	各原発でのプルサーマル計画がほぼ白紙に戻った。日本は約47トン以上のプルトニウムを保有しており、その使い道を明示できないのに、MOX加工工場を建設する意味が疑わしい。
建設費予算	約1,600億円	約1,000億円		約 7,000億円	
〃 実際	約2,500億円	約1,600億円	約1,250億円	約2兆1,930億円	約2,100億円

1,500 トン SWU/年    100万本分として    2,880本貯蔵    竣工後工事費562億円  
追加予定

訴訟提起	89年7月13日	91年11月7日	93年9月17日	93年12月3日	未提訴
一審判決	02年3月15日	06年6月19日			
高裁控訴	02年3月28日	06年6月29日			
高裁判決	06年5月9日	08年1月22日			
最高裁へ	06年5月22日	08年2月1日			
判決確定	07年12月21日	09年7月2日			

現在は、再処理工場と高レベル一時貯蔵施設の裁判が進行している。訴訟提起から27年目を迎えるが、昨年1月7日に新規制基準に基づく適合性審査が始まった。旧基準で建設された再処理工場は違法状態であり、絶対に負けれない裁判である。